

単元名 (書写)書き初めを書く

配当時間 3時間

単元の目標 (1) 文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書くことができる。
(3) 行書の特徴を理解し、自己の課題をもって取り組もうとする。

標準的な展開例

11210309_001

【教材名】「生命の尊重」「伝統の継承」(P. 133～P. 136)

【準備等】書き初め用紙

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 行書の特徴や配列を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生命の尊重」の行書の特徴を理解し、本時の学習課題をつかむ。 ★行書の特徴や配列を理解して書こう。 ○筆脈の連続を意識して、「生命の尊重」を半紙3枚に試書する。 ○基準を確認する。基準と比較して批正し、自己課題を設定する。 ○「生命の尊重」を半紙に練習する。 <p>2 用紙全体の大きさを考えて、配置を工夫して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を確認する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★用紙全体の大きさを考えて、配置を工夫して書こう。 ○「生命の尊重」を書き初め用紙に試し書きをする。 ○基準を確認し、基準と比較して批正し、自己課題を設定する。 ○筆脈と行の中心、文字の大きさを意識して練習する。 ○「生命の尊重」を書き初め用紙にまとめ書きをする。 <p>3 行書の筆使いを生かして、本文と氏名を調和よく書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を確認する。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★行書の筆使いを生かし、配置と配列を工夫して書こう。 ○前時に書いた「生命の尊重」に名前を記入する。 ○示範や基準と比較して批正し、自己課題を設定する。 ○「生命の尊重」を書き初め用紙に練習、まとめ書きをする。 ○学習のまとめとして、振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材は生徒の実態や興味に合わせて、選択したり展開を工夫したりする。 ・これまでの行書の学習を想起させ、行書の特徴を見い出せるようにする。 ・「生命」「の尊」「重」の三つの部分に分けて、練習させる。 ・基準は、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①行書の特徴 点画の変化、連続、省略 ②筆脈の確認 次の文字へのつながり ・時間によっては、相互批正を加えてもよい。 【評】行書の特徴や配列を理解して書く活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 ・前時は、行書の特徴と筆脈を意識して書いたことを確認させる。 ・書き初め用紙を使用して書かせる。 ・書き初め用紙に書く姿勢は、教科書(p. 133～p. 136)を参照させ、環境や実態に合わせて正しい姿勢を指導する。 ・基準は、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①筆脈の確認 ②配置の工夫 行の中心をそろえる。 漢字と平仮名の大小に注意する。 ・相互批正を取り入れる。 ・用紙の折り方を工夫して、文字の配置を考えるよう指示する。 ・縦に中心線を入れ、全体を四つ折りにすると教科書を参照しやすい。 ・試書と比べて、学習の成果を確認させる。 【評】用紙の大きさを考えて、配置を工夫して書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・筆脈と配置に気を付けながら、書き初め用紙に書いたことを確認させる。 ・小筆の持ち方、かまえ方について、教科書(p. 133～p. 136)で確認させる。 ・学年と氏名を小筆で書く配置を考えさせるために、よい例とよくない例を用意したい。 ・基準は、以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①配列、配置の視点 各文字の大きさの違い、字間を保つ、行の中心、氏名は用紙の中ほどから書く。 ②小筆の文字 単鉤法で持つ、提腕法か枕腕法を選ぶ、学年と氏名を小さくしすぎない。 【評】行書の筆使いを生かし、本文と氏名の配列、配置を調和よく書く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・教科書(p. 133～p. 136)に記入させる。

【備 考】

これまでの学習を生かし、文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書かせるとともに、相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

書き初めの学習で学んだ本人の好きな言葉や教訓を書くなどを、日常生活にも活用させたい。